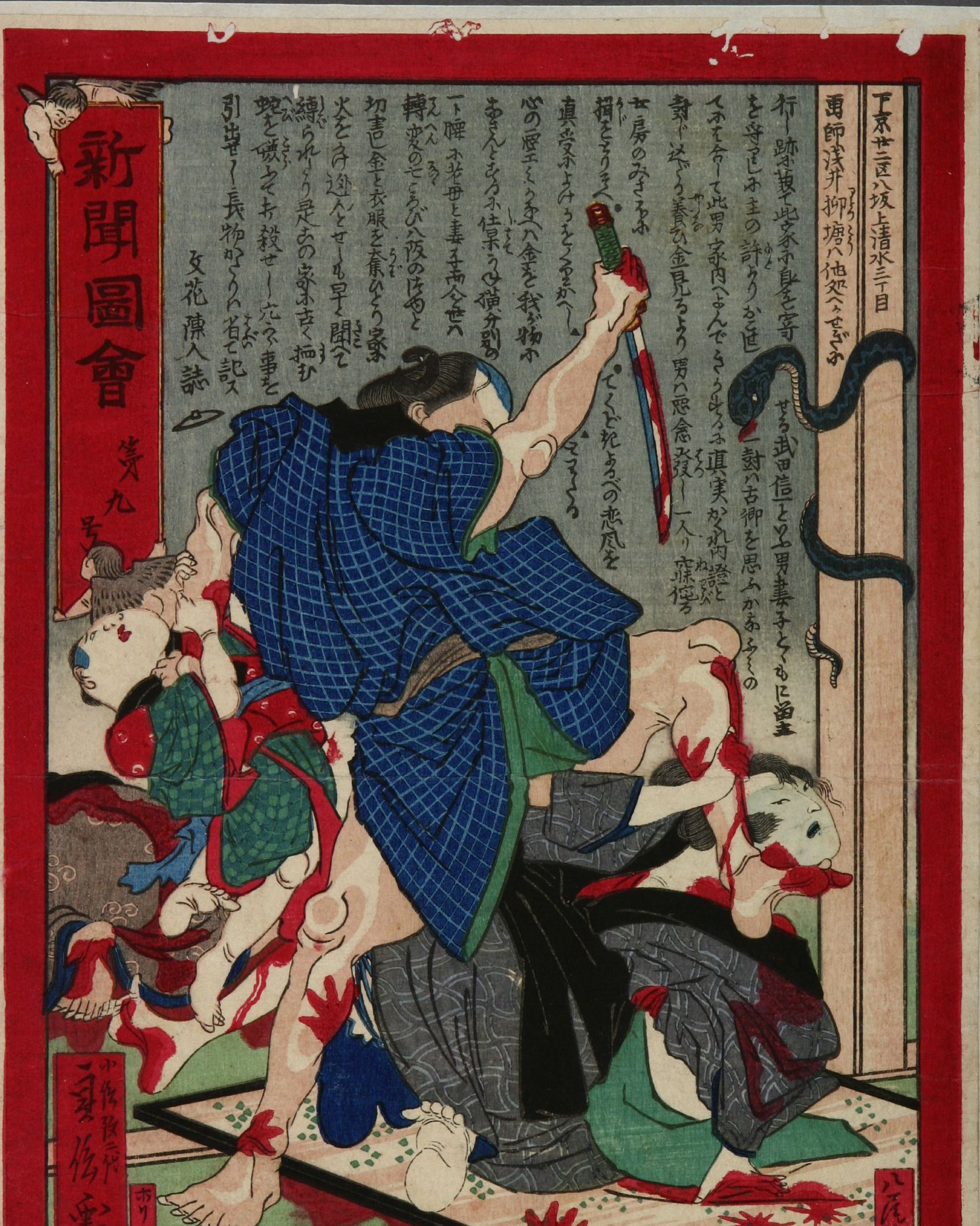

新聞圖會

第九号

下京廿二区八坂上清水三丁目

画師浅井柳塘（りうとう）ハ他処へゝせざるに行し跡ニ兼て此家ニ身を寄せる武田信正と云男妻子ともに留主を守居しニ主の許（もと）よりおこせし一封ハ古御を思ふかあふゝのてふを合して此男家内へよんできかせるに真実かくれ内證と封じ込ある養（やしなゐ）金見るより男ハ悪念発し一人り寐從ろ女房のみさるに揺をうちまくへ●てくど於よるべの恋風を真ハ受ニよみうちまくるまかへし▲そふくろ心の恐ろしく女ハ金を我が物にあきんとせるに往某ろ横分別の一ト睡ニ老母と妻子両人を世へ轉変（えへん）のてころび八阪のはかと切害し金と衣服を奪ひとり家火をかけ逃んとせしも早く聞（きき）て縛（しば）られより是ニの家ニ古く棲む蛇（へび）を殪ふて打殺せし穴ニ事を引出せし長物かとりれ首て記ス

文花陳人誌

小信改二代 貞信画

ホリ 平三

八尾善板